

さくら清修高 同窓会会報

第8号 編集人 和 氣 久 一 事務局 028(682)4500 印刷(株)ダイサン

創立二十周年に 向かつて

同窓会会長
和 氣 久 一

まずはじめに、この度の能登半島地震でお亡くなりになった方に深い哀悼の意を表しますと共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々が、一日も早く平穏な暮らしを取り戻せますようお祈り申し上げます。

さて、同窓会会員の皆様、日頃同窓会活動にご協力をいただき、感謝申し上げます。思えば、四年前に発見されたコロナウィルスによって、私たちの暮らしは一変されました。この科学が発達した時代にあつて、まさか疫病に振り回されるとは思いも致しませんでした。やつと新型コロナウイルスも五類に移行し、経済も復興に向かつて動き出したときに能登半島地震、そして、翌日には羽田空港地上衝突事故が起きてしまい、何か今年は日々気をつけて過ごさなければならぬと感じた次第です。しかし、どれほど気をつけても起きてしまう災害もあります。そのようなときに、常になにか起こるかもしれない非常の際に慌てない心を持つと共に、常日頃から、自分の体を鍛えておくことが大切だと思います。毎日健康でいられる為に、私は野菜を主とした食事と、毎日運動をしております。その他に精神の面でもストレスをためないことが重要だと思えます。十人十色と言いますが、人そ

れぞれで全く同じと言うことではないと思えます。ですから、癪にさわることを言われてもいちいち悩まないことですね。そのようなことが数回あつたら、あなただつたらどうしますか。一人で悩んで鬱病などにならないでください。誰かに話を聞いてもらうことです。身近に話を聞いてもらえる人がいなければ、公的機関を頼ってみるのもいいでしょう。以外と話を聞いてもらえるだけで、心が晴れます。そして、勇気を出して話し合うことでしよう。議論することは良いことです。皆と話し合いい、問題を解決していくことは良いことだと思います。同じ人間として、平等に接することの良いことだと思ふのです。

何度も原点に立ち返り、考えてみる必要があります。長い間やっていると、それでいいと言ふことはありません。何か改善点があるはずですよ。マンネリになってはいけません。

我々の母校も時代に合わせ、『氏家高等女学校』『氏家高等学校』として『さくら清修高等学校』と名前を変えてきましたが、目指すところは変わっていません。そして、令和七年にはさくら清修高等学校として、創立二十周年を迎えます。この記念式典に関しましては同窓生のご協力をお願いいたします。

最後に、同窓生皆様方の益々の発展とご健康をお祈りしてペンを置きます。

(氏家高等学校第五回卒)

「世は変われど母校愛は不変なり」有難き支援

校長
熊田 孝幸

日頃より和氣久一同窓会会長をはじめとする役員の皆様方、そして会員諸氏には、本校の教育活動に対しご支援とご鞭撻を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、この度の『同窓会報』の発行、誠にありがとうございます。

私は令和5年4月に校長として着任いたしました熊田孝幸と申します。どうぞよろしく願ひいたします。県南・県央地区の高等学校勤務は、さくら清修高等学校が初めてになります。年度当初、赴任が報じられるや否や多くの関係者から「良い学校に決まったね」とか、「部活動が盛んで、活気のある学校だよ」、「地域支援が期待できる所だよ」などと学校を褒め称えることは数々が耳に届きました。校長職を拝命して間もなく1年が経とうとしています。が、このことは期待を裏切るどころか、真に期待と信頼を寄せていただける学校であること日々実感し、改めて関係の皆様が築いてこられた伝統のお陰であること、感謝の念に絶えません。同時に、同窓生の皆様が過ごされた時よりも良い学校にしたいかなければならないと決意を新たに、経営力が求められているものと、身が引き締まる思いを感じて過して参りました。

さて、世界中を震撼させた社会構造の変革までを引き起こした新型コロナウイルス感染症や急速な情報化、さらに日本では予想を上回る少子化などにより、教育界も大きな転換期を迎えております。幸い、多感な時期をコロナ禍で過ご

し何かと制約を強いられた子どもたちも、今年度は以前の学校生活に近い状態での活動が可能となりました。長いブランクがあつたとは思えない程の活力と歓声が漲る、純粋で熱心な本校生の気質が、学校行事や部活動、ボランティア活動に臨む姿から窺えました。きつと年代により多少の差はあるものの、こうした生徒の良さは本校の伝統として先輩諸氏から継承されてきたものであり、変わらぬ信頼や期待に繋がっているものと考えます。

今年度、同窓会の各種事業がほぼ予定された内容で実施されましたこと、心よりお喜び申し上げます。例年以上に暑かった8月、2日連続で開催された「第4回10年会(4期生)」と「第5回10年会(5期生)」では、会長・副会長のご臨席のもと、多数の同窓生と当時の担任が会し、旧交を温め母校での思い出を語り合う素晴らしいひと時を過ごされていました。参会者の近況報告と、何より校歌を懐かしそうに斉唱されていたお姿が印象的でした。蛇足ではありますが、これまで勤務校の先々で私の考え「良い学校の条件」というものを生徒たちに伝えてきました。基本的な事項ばかりですが、単純だからこそ意外に浸透が難しい、次の3つのことです。

- 一 元気に挨拶をすること(挨拶は明るい人間関係を築く第一歩)
- 一 制服を正しく着こなすこと(一人は一校を代表す、見た目も肝心)
- 一 校歌を大きな声で歌うこと

(学校に誇りを抱いている証拠)

10年会での校歌斉唱の様子には、愛校心だけでなく、本校を卒業されたことの矜持の表れでもあり、社会での活躍も窺え知れるものと第2学期始業式には在校生に伝えておきました。横道に逸れてしまいましたが、このような機会が、絶え間ない母校愛を紡ぎ学校と在校生の支援に繋がっていくのだらうと感慨もひとしおでした。

令和7(2025)年度には「創立20周年記念式典」を実施すべく、今年度、

校内準備委員会を発足いたしました。来年度は実行委員会と組織の名称を変え、節目である記念式典実施の1年前を迎えます。同窓生の皆様には『記念誌』の編纂などの記念事業へのご協力、式典実施のために物心両面のご支援をいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、会員の皆様のご健勝と同窓会の益々のご発展を祈念申し上げますとともに、本校と生徒の支援をお願いいたします。ご挨拶といたします。

現在の大学生活



新潟大学 一年
本橋 琉偉

新潟大学理学部に進学した本橋です。私は高校生のとき、地震について学ぶことを志望していました。学校推薦型選抜で新潟大学理学部の地質科学プログラムに合格して、進学しました。

新潟大学理学部では、入学後に専門となるプログラムを学業の成績順に選べる方式になっています。ほかの一般選抜等で入学した友人は、志望しているプログラムに配属されるために授業を選択し、GPA(成績)を上げるために日々コツコツと勉強をしています。一方で私は、学校推薦型選抜という入試方法で入学したため、大学一年生の二期から地質科学プログラムに所属することが決まっています。内定を頂いている形なので、大学一年生と二年生の二期で地質科学プログラムに配属されるために取らなければいけない授業を優先して選択しています。

私の代では、さくら清修高校から新潟大学へ私を含め三人が進学しました。同じクラスで三人とも仲が良かったため、入学してわからないことや授業で理解できないことなど、なんでも相談できる大事な友達となっています。今でも、定期的に食事に行っています。三人とも元気に過ごしています。

2024.1.1、新年明けて早々、能登半島地震が石川県を中心とする地域を襲いました。新潟県も様々な地域で被害が出ました。私の住んでいる地域は海がとても近く、液状化の被害がでました。大学付近は高台となっており、私を含めさくら清修卒業生の三人は大学のすぐそばに住んでいるため、液状化の被害はなく、無事でしたが、少し下のほうでは地面が割れ、家が傾いて引越すを検討せざるを得ない家庭も見られました。地震発生から三日程度は電車やバスが止まっていた、バイパスや高速道路も通行止めとなっていたところもあり、私の場合ではアルバイトに行けなくなってしまうなど、制限がかかっている状況でした。今は学生のほとんどが元通りの生活を送れていることと思います。地震を学びたいと考えていた私は、改めて大学で地震をしっかりと学ばなければならないと決意しました。

大学では様々な分野を学ぶことができます。専攻したい教科はもちろん、興味のある授業を選択できます。理系の人でも文系の科目を履修することがあります。私は、ビジネス書道という授業を二期に履修しました。字の成り立ちや手紙の書き方、新潟の文化まで深く学ぶことができ、高校では学ばなかった新しい知識を取り入れることができました。

私たちは高校生の頃、コロナの影響をもろに受けていた年代なので、授業でのグループワークをする機会が少ない状況でした。私は

人と話すことが好きなので、シラバスを参考にグループワークを取り入れている授業を積極的に履修しました。コロナの制限が少しずつ緩和されてきて、マスクをしないう授業がとて楽しいです。楽しい授業だけでなく、当然難しい授業もあります。Sコードは専門的な授業になるので多くがテストで評価され、テストがある授業は日々勉強する必要があります。私が専攻する地質科学プログラムでは、一学期から実習が入ってきて、断層が実際に見える場所まで行き、調査をしてレポートにまとめました。考察をグループでまとめ、発表するのが大体的実習の流れになります。自分の考えを持ち、意見を交換して協力する必要がある。

アルバイト先は、居酒屋です。大学からは少し遠いですが、逆に遠いことで他大学の人も出会え、友達が多くなれることがメリットの一つだと思います。最初は初めてのアルバイトということもあり、慣れなくて毎日怒られていましたが、今までに身につけた忍耐力を活かして今は半年くらい続けることができ、ようやく新人に教える段階まで来ました。サークルに関しては、最初は友達を多く作るためにたくさんサークルに入りましたが、今はバスケットボール、スノボ、学校祭実行委員の三つに入っています。バスケットは週一で活動しています。スノボは12月頃からシーズンに入り車でスキー場に移動します。雪国ではありますが、一番近いスキー場までは一時間程度かかり、二月がテスト期間のため、その前後に活動がありますが、道具を揃えました。学校祭実行委員では、ステージの準備をしたり看板を作

たり、ビラ配りをしたりなど、学校祭がスムーズに運営できるようにするサークルです。スノボと学校祭実行委員は1300人以上いるので、多くの友達を作ることができました。新しい友達ができても、やはり地元

の友達が恋しくなります。新潟にいと車帰ることが多いですが、片道三時間程度かかるため、長期休みには帰れず数か月に一回しか地元の友達は会えない状況です。11月は地元の友達が新潟に来てくれて、金沢に旅行に行きました。大学に入り免許を取ると、高校の頃と比べ動ける範囲が広がりました。新潟が地元の友達は幼馴染が近くにいるため、いつでも食事に誘える状況にあつてとてもうれしく思います。大学では目標をもつて生活することが重要だと思います。良くも悪くも、大学生には時間があります。目標がないとだらだらと過ごしてしまうので、課題を早めに終わらせる等、細かいことを決めて何やかやで逃げたいことを決めて生活していくとと考えています。(さくら清修高等学校第十五回卒業生)

高校時代と今の私



青木 佑太

私は今、さくら市内で飲食店を二店舗経営しています。人に喜んでもらえることを仕事にしたいと思い、今の仕事をしています。飲食店と地域の縁を作ることも意識しています。平成十九年四月に、さくら清修高等学校の二期生として入学しまし

た。氏家高等学校と喜連川高等学校の合併や、市町村合併が進み、これから「さくら清修高等学校」と「さくら市」は、どうなっていくのか、進化や変化の間われる時期であったかと記憶しています。

私は旧氏家町で育ちました。栃木県立上松山小学校、栃木県立氏家中学校に進学し、サッカー部に入学しました。小学校二年生で始めたサッカーを通じて、かけがえない仲間たちに出会い、熱心に指導してくれた先生方には感謝しています。今現在も交流があります。経営する飲食店にご飯を食に来てくれたり、お酒を飲んだりと当時の話を肴にいつも盛り上がりつづいています。

さくら清修高等学校に入学して学校生活が始まると、総合学科ということもあり、個人の将来に合わせた選択科目を選べる楽しさがありました。学校の催し物で、体育祭があり、まだちゃんと話したことがない同級生とも盛り上がりました。

テスト勉強を徹夜して登校した時には、試験開始前に担任の先生が「顔色悪いよ。食ってテスト頑張るってね」とカロリーメイトを自販機で買って来てくれた事を覚えています。二年生になると、桜花祭とスポーツ大会、修学旅行など、学校行事が沢山ありました。

部活動では、試合に出られるようになり、インターハイ県予選大会で、強豪の真岡高等学校に勝利し、初めてベスト8に入りました。

そのインターハイ予選後、ほとんどの三年生が引退し、私はキャプテンに就任しました。

この勢いで冬の選手権も頑張ろうと意気込んだ矢先、練習試合で相手選手との衝突により、全治二か月の肉離れを患いました。

選手権大会への自身の出場は断念し応援に回りましたが、二回戦で敗戦しました。ちなみにその年の全

国大会では、現在も第一線で活躍する大迫勇也選手が躍動した大会と言えは伝わるかもしれません。

修学旅行の沖縄も松葉杖と電動車椅子で移動していたのも、今では良い思い出です。あのとき、保健室の先生や同級生たちが付き添ってくれたり、お土産を代わりに買って来てくれたり、周囲に感謝ばかりの旅行でした。

三年生になると、学業と部活動の両立が大変だったなと思います。関東大会県予選で初めてベスト4に入りました。準決勝で延長戦の後半に点を決められ、負けました。悔しさもありましたが、冬の選手権でもつと上に行きたいと部員全員が想って、その後の練習や試合に取り組みました。後輩たちも我々の背中を見て、ついて来てくれました。あの切磋琢磨した日々は、私にとって大切な時間です。

ちなみに、最後の選手権大会は、準々決勝で佐野日大高校に1対2で敗戦しました。試合終了後に、当時の校長先生から涙を流しながら「感動した。よく戦った。」と激励の言葉を頂きました。人生においても苦しい時、悔しい思いをする時は多々あります。でも、これまで一・二回負けが続いたチームを県内の県立高校の中でサッカーと勉強を両立するなら、さくら清修高校が良い。と言われるきっかけは「お前たちの結果があつたからだ。」と周囲から卒業して十四年経った今でも言われ、嬉しく思います。今の私の仕事も応援し続けてくれています。縁が繋がっています。

コロナ禍であっても、テイクアウトでお弁当やオードブルを注文して支えてくれました。

今の先生方の中には、当時の先生はいませんがこうして同窓会会報に掲載の機会を与えて貰えるなど、繋がり生きています。いつどこで自分を見てくれる人が居るかは分かりません。いつ自分自身に、これま

での経験を活かせる瞬間、場所、機会が訪れるかも分かりません。ですが、私はこの縁繋がりを一つの武器として、仕事に活かしています。

高校は進路が決まらぬまま卒業しました。在学中の部活動を引退後に、肺気胸という病気を患い、大学に進学しても、部活動はドクターストップという判断が下された為です。同級生たちの9割くらいは進学でしたので、約一年間出遅れ、劣等感と焦りがありました。

それから、現在の職業を続けて十三年目になります。あの二つの時に、これまでの自分と、これからの自分を考える時間を与えてくれた両親や、心の支えとなってくれた旧友たちに感謝しています。飲食店を開業するまでには、大変な時期もありました。今では考えられない労働時間や、ハラスメントと隣り合わせの毎日でした。9年間の修業時代は、サッカーが上達する時の苦しさに似ていました。だから私は、その苦しさを楽しさに変えることができました。高校時代の部活動と同様に、今も仕事を頑張っています。何事も、大変で辛いことはありますが、それを乗り越えられる人になつて下さい。縁や繋がりを大切にしてください。

現在、在学生会は学業のみならず、スポーツや文化芸術など幅広く活躍されています。道路に面した横断幕をいつも通過時に横目に見て感動しています。応援もしています。最後の高校生活で、最高の高校生活を送ります。故スティーブ・ジョブズさんの

「STAY HUNGRY, STAY FOOLISH」現状に満足するな、自分は愚かだと思え。ーという言葉です。熱い想いを込め、今後の皆様の活躍を祈りつつ結びと致します。

(さくら清修高等学校第三十三回卒)

研修旅行のことやらなにやら

小林 義朗

まずは新しく同窓会の会員になられた三年生の皆さんへ、ご卒業おめでとう。僕は高等学校の国語の教員として三十七年間勤務したけれど、皆さんはその最後の教員ということになりました。僅か一年間という短い間でしたが、楽しく授業させて貰えました。ありがとう。退職後も街中で出会うと声を掛けてくれたり、手を振ってくれたり。と。うれしかったな。でも、これからは同窓会の集まりとかで学校に来て、皆さんがいなかた。かな。教員生活の最後の二年間と生徒としての三年間の合わせて十五年という月日を、このさくら清修高校で過ごせた。僕はやっぱり幸せ者です。ここにいます。時は実感できなかつたんだけど、おそらく未来のことだったんだけど、皆さんもたぶん実感できてないんじゃないかな。で同窓会の話、ちよつとさせて。同窓会って皆さんにとつても、僕にとつても、いつでも気が向いたときに戻って来れる「場所」だと思ふ。そして、この「場所」ではみんな元の友達同士に戻ってタメ口で付き合えるはず。長い人生、時には過去を振り返って戻つてみたくなるときもあるよ。そんな時はいつでも帰って来て下さい。待つてます。もちろん、皆さんが健康で幸せな人生を送っているならそれはそれで一番嬉しいことなだけで、たまにはね、顔見せてよ。で、同窓会の研修旅行のこと。県内の高校で同窓会の旅行を実施しているのは、さくら清修くらいしかないよ。ちよつと敷居が高い会合

とは違つて気軽に参加出来ると思う。一人で心細ければ何人か同級生に声をかけて。すくなくミニクラス会が開けるよ。僕も生きてる限り(笑)参加し続けるつもり。毎年十月の第一週に決まってるので、時期が近づいたら学校のHP見てみて。

さて、今年度の研修旅行は昨年十月七日の土曜日。眠い目を擦りつつ午前七時に学校集合。参加者は十九名。ね、ちよつとどろろかななりサビシイ。バスもガラガラじゃん。いくつか皆さんの仲間たちでいっしょにして。目的地は茨城・千葉方面、さて出発！(行く先は毎年変わるが、関東全域と甲信地方、それに南東北。日帰りで行ける範囲だ、少し研修もしてうんと楽しんで美味いものを食べてくるつて感じ)。

まずはちよつと研修からと言うことで、茨城県つくば市の「JAXA筑波宇宙センター」へ。僕の宇宙に関する知識はアポロ十一号の頃から進歩してないの、で頼りないこと夥しいが、少し研修の成果(の一部)。何と言つても一番カッコよかったのは国際宇宙ステーション「きぼう」の運用管制室、ガラス越しに見学でき、ここで宇宙ステーションに指令を出しているのだ。たくさんの方が動いているが、とにかくスゴい。少年の日にここに来たらきっと将来の希望が「JAXAの職員」になつたに違いない！そうそうかつての教え子の一人がここ働いているんだ、教師は十年一日のごとくだが、教え子はぐんぐん成長していくものなのだ。

次に訪れたのが千葉県成田市の成田山新勝寺。お不動さま、あの寅さんが首に掛けてたお守りもここ成田山のもの。お参りより前に先ずは腹ごしらえ(笑)、山門そばの若松本店でうな重を食す。美味なり。此近辺は古来、川魚が名物で、の参道にも鰻の名店多し。腹ごしらえが済んだら、えつちらおつちら石段を登つて旅の安全と家内安全・大願成就、ついでにコロナの撲滅まで祈願、五円のお賽銭では虫がよすぎるね。帰りがけ参道の羊羹屋でこの時期限定の栗蒸を買おうとしたら売り切れ。むう。お腹もいっぱい、時間も昼下り、車中はまどろみの世界に。そして最後の見学地、千葉県芝山町の「空の駅風和里しばやま」に到着。ここは地元の特産物を販売する道の駅のような施設だが、そばの丘に登ると成田空港を発着する航空機が手の届くような距離感で見ることが出来る。はるか異国に旅立つ航空機の轟音を子守唄に午後ひとときを送る。やがてバスは帰途へ。

かつて同じ「場所」を共にした仲間たちと、時を超えてまた一日を過ごす。そんな非日常がたまにはあつてもいいんじゃない？皆さんの参加を待つてますよ。ここまでお読み頂いた諸先輩方へ、タメ口の連続でさぞやご不快のことと存じます。これから同窓会を背負つて立つてくれるに違いない若い同窓生に向けて終始語り掛けてしまいました。失礼の段、平にご容赦を。

(氏家高等学校第三十三回卒)



